



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

伊予見峠

昭和47(1972)年頃
山本町

伊予見峠は現在国道377号が通っているが、かつては交通の難所であった。昭和47年、伊予見峠が整備され豊浜・琴平間が県道になると、国鉄バス・琴参バスの路線バスが運行されるようになる。

「思い出のページ」

「ここから愛媛県の二ツ岳が見えるから、伊予見峠って言うんですよ。昔はよう見えてた」峠のすぐ近くに住んでいる大西勝さん(80)は、懐かしそうに話してくれました。

「今の道は昭和40、46年ごろにできた道。それ以前の道はカーブが多く『七曲の峠』と言われていました。うちの裏側のカーブもすぐ急でしたよ。そもそも、最初の伊予街道は神田川上流の川沿いにあったんです。狭い道でしたが、少しずつ道幅を広げ、籠や人力車が通れるまでになりました。戦時中私が小学生のころは、神田小学校の半分くらいの子が、その道を通って牛屋口を越えて、金比羅の山にどんぐりを拾いに行きました。粉にして食糧にするためです。子どもの足で金比羅まで歩くのは、本当にしんどかったですよ。」

その後何度か改良を重ね、元の道より高いところに道がつき、山すそに沿ってカーブしたバス道ができました。終戦直後は鉄道省の省営バスが運行していましたが、これが木炭バスでね。伊予見の坂がきつくて上れずに、途中でバスが引き返すこともありました。当時、私は旧制中学にバスで通っていましたが、そ

このころのバスは自転車より遅かったくらいですよ。バス道のカーブをまっすぐに直してできたのが、今の道です。伊予からの車が観光などでよく使っていたこの道も、高速ができて以降、観光バスはほとんど通らなくなりました。振り返ってみると、単なる道にすぎないけれど、そこには時代の流れがある。思い出もある。峠に対する愛着や郷愁を感じますね」



編集
後記

今年(2014年)は雨が多い夏でしたが、日差しが強く暑い日も多かったですね。でもそれ以上に熱かったのが、今回特集した農家の人々の農業にかける思い。皆さんの熱い思いや、そこに至るまでの道のりなどを聞くと、書きたいところがいっぱい。どの部分を掲載しようかと頭を抱えてしまっただけです。これまでの、三豊ならではの魅力を守りながらも、さらに新しい農業のカタチを切り拓く人たちが、厳しいといわれる現状に捉われることなく、このまちの農業の未来予想図を描き、挑戦する皆さんの姿に「三豊の農業者の底力」が見えました。熱いぞ、農業！